

長洲町教育委員会 会議録

会議録	令和元年度 第10回（臨時）長洲町教育委員会会議		
招集年月日	令和元年10月30日（水）午前10時00分 招集		
招集場所	長洲町役場 3階 中会議室		
出席者	委員会	教育長 戸越政幸、坂本裕文教育長職務代理者、 上野美登委員、隈部壽明委員、徳田美津子委員	
	事務局	学校教育課	課長 松林智之
		生涯学習課	
欠席者	なし		
職務説明責任者	松林 学校教育課長		
会議録作成者	松林 学校教育課長を指名		

日程番号	事件番号	事 件 内 容
第 1		議事日程について
第 2		会議録署名委員の指名について
第 3	報告第16号	新入生等の状況について （学校教育課）
第 4	報告第17号	9月 校長会について （学校教育課）
第 5	報告第18号	事故発生報告について【非公開】
第 6	報告第19号	生徒指導について【非公開】

(開会 午前10時00分)

○学校教育課長（松林智之）

皆さまおはようございます。

ただいまから第10回目の教育委員会会議を開催します。

本日は会議の終了後に毎月1回実施されてきました教育委員さんの勉強会、研修会についてご相談させてもらえと思っています。よろしくお願いします。

それでは地方教育行政法第13条第1項の規定に基づきまして教育長に会議の議事進行をお願いします。よろしくお願いします。

○教育長（戸越政幸）

おはようございます。本日は出席委員が定数に達しておりますのでこの会議が成立することを報告します。

それでは令和元年度第10回教育委員会会議を開催します。

あらかじめお諮りします。

会議の議題は事前に通知していますとおりでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

それでは日程番号第1議事日程について本日1日間とします。よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

日程番号第2会議録署名議員の指名について徳田委員を指名します。

(異議なしの声あり)

また日程番号5報告第18号の事故発生報告及び日程番号第6報告19号の生徒指導については個人情報が含まれますので、非公開として取り扱います。

それでは日程番号第2報告第16号について事務局から説明をお願い致します。

(報告第16号 学校教育課長 説明)

○教育長（戸越政幸）

今、新入生等の状況について説明がありましたが、ご質問ご意見ございませんでしょうか。

○教育長職務代理者（坂本裕文）

六栄小学校、腹赤小学校、六栄小は35人学級ですね。

○学校教育課長（松林智之）

はい、1クラスとなります。

○教育長職務代理者（坂本裕文）

これが4年生になるときが心配ですね。その非常勤ていうかな臨採の採用、押さえの関係からするとちょっと厳しいなと思って、3校ですね、臨採が3人、それが入るか入らないかわからない、特に腹赤小学校の35人学級ははっきりしてるので入ると思うんですけども、40人学級に考えた場合ですね。3年生になった時がまた心配がくる。

○学校教育課長（松林智之）

来年度はおそらく大丈夫かとは思いますが。はい。また3年後がですね。

○教育長職務代理人（坂本裕文）

40人に満たってないので、多分臨採措置がくる可能性が強いと思いますけどね。

それと長洲小学校の特別支援学級、これ知的はぜひ長洲小学校に作ったほうがいいと思っているんですよ。今の現状から、長洲小学校の現状を見ると、特別支援の方が非常に困っているんですね。ですから、この長洲の知的というのは最重要視してほしいなと思っているんです。

○学校教育課長（松林智之）

はい、長洲小の今情緒の所は各学年毎に別れているので、非常に先生方も苦勞して授業進められて。

○学校教育課長（松林智之）

腹赤小もしかりなんですよ。あそこもまたがっていただけですもんね。ですから、もう腹赤小の方も非常に困られております。精いっぱいやられている状況の中であれだけですから、本当に現場のご苦勞が見えるようで、大変だなと思ひながら。

○教育長（戸越政幸）

ご意見ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

ちょっと捕捉して。とにかくですね、臨採がいらないんですよ。ですから、あのこういう押さえになったときに、配置枠には入るけど、とうとう臨採が見つからないという状況になりかねないんですよ。そのへんのところが、今後、来年度だけじゃなくて本当に大きな課題として私たちが抱えなくちゃならない課題だと思いますけどね。

○教育委員（隈部壽明）

それは、私たちというか全国的な問題ですね。

○教育長（戸越政幸）

そうですね。

○教育委員（隈部壽明）

うちがどうこう…、まあ県ですよ。最終的には。どうするんですかね。

○教育長（戸越政幸）

まあひとつの傾向としまして、例えば採用試験を受けようとする大学を出た人たちですね、結構以前はずっと臨採希望しながら受験をするというようなことが通常そういう流れでいったんですが、今はですね、採用試験を重視して、臨採はしないとそして採用試験後あればするというような傾向もあるんですよ。ですから、年度初めのこういう状況、臨採採用で余計にですね。だから今県の方向としては例えば退職された先生方の再任用ということに力を入れていっているみたいのところですね。

ですから、先ほど言われてた教育委員会だけの問題じゃないんだけども結果的には教育委員会がしょいこまなくちゃならない、現場がしょいこまなくちゃならないというね…。

ねじれを感じながらですね。どうこれで取り組んでいくかということですね。そういう課

題を含んでるということです。

○教育委員（徳田美津子）

なかなか手がない理由があると思うが、賃金の問題とかそこはないんですかね

○教育長（戸越政幸）

賃金というより先生は大変だというようなものが大きいのではないかなと

○教育長職務代理人（坂本裕文）

働き方改革が出てきて教育現場がクローズアップされてきた。その中で教職員の働き方がマスコミの中で出て世間一般で広まった。教職を敬遠しがちというところがある。昔は試験の倍率も少なくなってきた。それだけ希望する人が少なくなっている。人員不足だ。教員不足に拍車をかけている。

○教育委員（上野美登）

高校など合併して少なくなっているのに先生が少なくなっているのはなぜか。

○教育委員（隈部壽明）

早めに退職する方もいる。もうやってられないという人が結構多い。

○教育委員（上野美登）

働き方改革も先生が地域の人に前向きに出したり、残業できないから手伝いを頼むという言い方があって誤解を生むのではないかということがあった。六栄小学校でもそのようなことがあって保護者と先生との間に隙間ができたこともある。

○教育委員（隈部壽明）

コミュニティ・スクールと言って地域の人と協力してやろうというのがあるのだが、結果的には地域の人が主導的にやる訳ではないので、先生たち、特に教頭先生は段取りや前準備をやって負担がどんどんかかっている。コミュニティ・スクールも進めることはいいが、むしろ学校に負荷がかかってきているなという実態を見ると、やはり考えていかないと地域との連携という話も働き方改革という面から見るとよくはなっていない。寧ろ悪くなっている。

○教育委員（上野美登）

コミュニティ・スクールは先生達が変わってもいいようなスタイルを作っているので、校長先生や教頭先生は前に出てきてもらわない。校長先生が変わったら色が変わるというのでは意味がないので、地域の人が主体となってしてくださいというのがコミュニティ・スクールだから校長先生達は最初の挨拶と意見を求めるくらいだ。

○教育委員（隈部壽明）

学校によるようだ。そういう風になっていけばいいと思う。

○教育委員（上野美登）

確かに人を寄せたりするのは大変ですもんね。

○教育長（戸越政幸）

いろいろな要素があると思うが、一般社会では、就職も選択が多いと思う。福利厚生や自

分の時間が持てるかなど、若者の生活スタイルも変わってきている。それから比べると教員の世界では課題が山積しだしている。保護者対応、生徒指導、いじめ、不登校など以前はそんなに労力のいらなかった教員の仕事だが、そちらの方にエネルギーを使う。本来やらなくちゃならない子供と関わって教育活動というよりもどちらかという前述のものに労力を使うようになって、以前から比べると魅力的な要素よりもしんどい要素が多くなってきている。そこでなり手が減ってきているというのもあるんじゃないかと。

○教育委員（徳田美津子）

積み重なってきた感じはありますね。先生方ご自身が子供と関わることに喜びを感じないとか誇りを持てないとか、その余裕がないんでしょうね。学校に行ってみてもお疲れのご様子です。そうとう負担が大きいんじゃないかと思って見てます。

○教育長職務代理人（坂本裕文）

教職員は生きがいというような面、教員としての充実感が昔はあった。他の労力に負われて充実感が薄れてきてるのではないかと。もっと授業にかけてもらいたい。子供たちと授業の中でやり取りをして成長させていくという本来の教員の在り方、スタイルができれば、もっと増えると思うんですが。

○教育委員（上野美登）

小学校は担任の先生が授業をして、中学校は教科担当が授業をするというの变えられないんですよね。

○教育長職務代理人（坂本裕文）

今のシステムでは变えられない。小学校で教科担当制をしようとすれば先生数がもっと必要となる。

○教育委員（上野美登）

理科などは子供たちが食い入って見てて、それは教科担当の先生がそういう授業を作っているように思う。他の授業などは担任の先生が1日何コマも行い何ページも進んで子どもたちも何も分からないまま終わる。やはり教科担当の先生がいるとメリハリがついていいのかなと思う。

○教育長職務代理人（坂本裕文）

今は理科と算数はT Tの先生が周るなどしている。音楽や体育などは2クラスあれば担任の先生が交代で担当するなど工夫はされていますね。

○教育長（戸越政幸）

担任の先生がずっと同じクラスの授業をするという訳ではなく体育に堪能な先生、音楽が得意な先生を入れ替えるなど校長の発想や学校運営でできると思う。

○教育長職務代理人（坂本裕文）

国全体も小学校高学年に教科担任制をとという方向性が示されてきているので、システムが国から降りてくる可能性はあります。英語も英語採用枠を熊本県が入れてきているが。絶対数が足りない。

○教育委員（上野美登）

長洲は英語の先生に関しては恵まれている。そういう風に、子供が何でかなと思ったときに答えられる先生をですね。分からんで1日終わったというようなことがないようにしてほしいですね。37人を1人で見るのは大変というのは分かるが、やはり置いて行かれている子は多いし、だから学力が低下していると言われたら、言い訳できないと思う。

○教育委員（徳田美津子）

子どもは先生の顔色見るから、先生たちが元気でないとですね。

○教育長（戸越政幸）

とにかく子供たちにいい先生と出会いをさせなければいけない。いい先生を育成していく役割も委員会にあるのではないかと。

では次に行きたいと思います。

○学校教育課長（松林智之）

資料3ページ目をお願いします。報告第17号9月校長会について、このことについて別紙のとおり報告します。令和元年10月30日長洲町教育長戸越政幸でございます。

（別紙にて説明）

○教育委員（隈部壽明）

2番目の教育長より指導、講和の前学調の結果を受けて対策会議が毎年行われていますよね。それはいつ頃から始めるのか。

○教育長（戸越政幸）

具体的にこのときとはせずに、大きな課題だと捉えて次年度は学力向上を全面に出し取り組んでいましょうという所でこの会議は終わりました。

○教育委員（隈部壽明）

毎年やって対策と結果を常々見直しているのか。

○教育長職務代理人（坂本裕文）

各学校で課題を洗い上げて取り組んでいます。

○教育委員（隈部壽明）

それがこちらには見えない。

○教育長職務代理人（坂本裕文）

どういう風に資料にするか、まとめにくい部分があり報告しにくいんですよ。

○教育委員（隈部壽明）

我々が関与できないので、結果としてダメだったと思い続けなければならないのは虚しい。

○教育委員（徳田美津子）

具体的な取り組み内容がちょこっと情報が入れば安心するのだが。

○学校教育課長（松林智之）

これをすれば学力があがるというものがあればいいんでしょうが、なかなかないので・・・。

○教育長（戸越政幸）

県教育長の講話で大半の時間をかけられたのが学力についてでした。県全体の学力が全国平均よりも落ちているとのことだ。玉名教育事務所も上がっていない。全国平均並みの力は付けてあげるべきだろうとのこと。全県下あげて取り組みがあるようだ。学校は学校として取り組んでいるが教育委員会としての方策はどうするべきかを模索しているところだ。例えば町独自のサマースクールを開くなど。町としての支援を模索しているところであります。その他ございませんか。

○教育長（戸越政幸）

それでは次に行きたいと思います。

（報告第18号 学校教育課長 報告）

－ 報告第18号については、個人情報の保護の観点から非公開 －

○教育長（戸越政幸）

次に第6号報告第19号について事務局より説明をお願いします。

（報告第19号 学校教育課長 報告）

－ 報告第19号については、個人情報の保護の観点から非公開 －

○教育長（戸越 政幸）

ありがとうございました。それでは、これを持ちまして本日の全日程が終了いたしました。第10回臨時教育委員会会議を終了いたします。お疲れ様でした。

（閉会 12時14分）